

0歳の予防接種 ワクチンデビューは、生後2か月の誕生日 スケジュール

0歳の赤ちゃんをVPD(ワクチンで防げる病気)から守るためには、生後2か月になったらできるだけ早くワクチンを受けることが大切です。このスケジュールはNPO法人VPDを知って、子どもを守ろうの会によるもっとも早期に免疫をつけるための提案です。

ワクチン名	接種済み <input checked="" type="checkbox"/>	誕生	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	1歳
B型肝炎 (母子感染予防を除く) 定期	<input type="checkbox"/>													
ロタウイルス 定期	<input type="checkbox"/>													
小児用肺炎球菌 定期	<input type="checkbox"/>													
五種混合 (ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ・ヒブ) 定期	<input type="checkbox"/>													
BCG 定期	<input type="checkbox"/>													
MR (麻しん風しん) 定期	<input type="checkbox"/>													
水痘 (みずぼうそう) 定期	<input type="checkbox"/>													
おたふくかぜ 任意	<input type="checkbox"/>													
日本脳炎 定期	<input type="checkbox"/>													
新型コロナ 任意														
インフルエンザ 任意	毎秋													

必要回数を接種するために生後2か月になったらすぐに同時接種で受けましょう。

1価ワクチンと5価ワクチンがあります。初回は遅くとも生後14週6日までに接種を開始し、それぞれの必要接種回数を受けます。

0歳のうちに3回接種が必要。3回目は2回目から4-5か月の間隔をあけます。

3回目を生後6か月までに受けるようにしましょう。

予防効果を長期にわたって維持するために1歳代の追加接種を忘れずに受けましょう。

1歳の誕生日が来たら同時接種で受けましょう。小児用肺炎球菌・五種混合・MR・水痘・おたふくかぜの5本を同時接種で受けることもできます。

標準的には3歳から接種しますが、生後6か月から受けられます。

ワクチンの種類によって、接種スケジュールが異なります。事前に最新情報をご確認ください。

毎年10月から11月ごろに接種しましょう。

生ワクチン 注射・スタンプ式 定期 定められた期間内で受ける場合は原則として無料(公費負担)。 定期の予防接種の対象年齢 おすすめの接種時期(数字は接種回数)
 不活化ワクチン 経口 任意 多くは有料(自己負担)。自治体によっては公費助成があります。任意接種ワクチンの必要性は定期接種ワクチンと変わりません。 任意接種の接種できる年齢
 mRNA ワクチン ●異なる種類の注射の生ワクチン同士の接種間隔は最短で4週間です(4週間後の同じ曜日から接種可)。

同時接種：同時に複数のワクチンを接種することができます。安全性は単独でワクチンを接種した場合と変わりません。
 国や日本小児科学会も乳幼児の接種部位として太もも(大腿前外側部)も推奨しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください。 詳しい情報は <https://www.know-vpd.jp/>